

生成系 AI (Generative AI) の話題が新聞や報道番組で頻回に取り上げられています。指示者による一定のキーワードに対し、関連する膨大な文字画像情報から、指示者の要求や命令に従いコンテンツを提供し、人知を超えたクリエイティブな仕事も行えるようです。情報収集能力の向上した現在において、さらに情報の整理と正確性の判断、導かれるべき結論に至るまで AI がサポートしてくれるかと思うと、私のようなアナログ人間にとっては便利よりむしろ空恐ろしい印象もあります。とはいえ、頭を抱えながら編集後記を作成しているものにとっては、“脊椎脊髄ジャーナル、特集内容、気の利いた編集後記”と問いかければもっとハイレベルな文章が一瞬で出てくるのかもしれませんが。また、本特集のような難治性の病態についても疾患・患者・医療機関の条件を入れれば最善の治療が指示され、学会の総合討論では AI の最終意見で締めくくる日が来るかもしれません。利便性はあるながらも、著作権や人類の創造力劣化の問題など、汎用化についてはまだまだ課題がありそうです。

さて、今回の特集は首下がり症候群（頸椎後弯変形）の病態と治療に関する特集です。これまでも 2008 年に発刊された「くびの異常姿勢」はじめ「首下がり症候群」に関する特集が何度か組まれており、特大号にもたびたび取り上げられた関心度の高い特殊な疾患です。成人脊柱変形についてはその病態理解と至適治療法の進歩が目覚ましく、首下がりを含む頸椎変形に関しても、その原因や発生頻度、臨床および画像診断のポイントが明らかとなりつつあり、胸腰椎以下の脊椎下肢評価も治療戦略を考えるうえで重要であることがわかっています。また、外科医にとっていまだハードルの高い疾患でありながら、手技や機器の発展とともに頸椎アライメントを理想に近い形に戻す矯正固定術が可能となっています。難易度・危険度は残るものの、安全性や低侵襲化の進歩もあり高齢者においても矯正固定術によって ADL が著明に改善した症例を経験すると、“手術が人生を変える”を実感します。しかしながら、本特集に書かれているように外科治療はあくまで選択肢の 1 つであり、首下がり・頸椎後弯変形にはその原因となる疾患の究明が必要であり、増悪因子の排除とともに保存的治療に反応しやすい条件を理解しなければなりません。また、外科治療を選択するにしても病態や手術要点の把握が不十分であれば不幸な結果を招きます。本特集はこれまでの企画をさらにアップデートし、本疾患の知識を深める大変有用な 1 冊となっております。ぜひご一読ください。

(高橋敏行)

脊椎脊髄ジャーナル

編集顧問

萬年 徹 金田清志 小山素磨
小柳知彦 田代邦雄 国分正一
服部孝道

編集委員

山崎正志（編集委員長）
亀山 隆 園生雅弘 高橋敏行
高見俊宏 筑田博隆 永島英樹
中村雅也 根尾昌志 原 政人
飛驒一利 堀 正明 松山幸弘
安原隆雄

Vol. 36 No. 7
(2023 年 9 月 4 日発行)

毎月 1 回 25 日発行

1 部定価（本体 2,500 円＋税）
(配送料別)

年ぎめ予約購読料 33,300 円＋税
送料弊社負担

発行／株式会社 三輪書店
代表者 青山 智

〒113-0033

東京都文京区本郷 6-17-9

本郷網ビル

TEL 03-3816-7796

FAX 03-3816-7756

URL <http://www.miwapubl.com/>
(担当：山岸)

印刷所／三報社印刷株式会社
TEL 03-3637-0005

広告申込所／

(株)文栄社

TEL 03-3814-8541

(株)ハイブリッジエージェンシー

TEL 03-3814-0089

本誌の内容の無断複写・複製・転載は著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

Published by MIWA-SHOTEN Ltd.
6-17-9 Hongo, Bunkyo-ku, TOKYO © 2023,
Printed in Japan

JOCOPY 〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前
に、出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088,
FAX 03-5244-5089, e-mail : info@jcopy.or.jp)の
許諾を得てください。